粘りたたえ歓声

宇佐美選手も出場

サッカー W杯 2018 ロシア大会



日本の２点目が決まり、盛り上がるファン
＝中京区錦猪熊町のビストロ食堂ｍａｓ

サッカー・ワールドカップ（W杯）の日本の2戦目が25日にあり、失点しては取り返す熱戦でセネガルに2－2の引き分け。府内各地でファンがわいた。

中京区のイタリア料理店「ビストロ食堂ｍａｓ」では、約30人のファンがテレビにくぎづけ。先制されたが、前半終盤に追いつくと、「おーっ」と喜びにわく声が響いた。

後半に1点追加された後半終盤、長岡京市出身のMF宇佐美貴史選手(26)が出場。持ち前のスピードにのったドリブルで相手のファウルを誘った。小学校時代に指導した長岡京サッカースポーツ少年団の小嶋重毅（しげき）コーチ(57)は、長岡京市の自宅で観戦。「次戦はシュートまでもっていってほしい」。W杯初ゴールに期待を寄せた。

次戦は28日午後11時（日本時間）にポーランドと戦う。

（白見はる菜）

が、途中出場のMF本田圭佑選手(32)がシュートを決めて同点。総立ちで「本田！本田！」のコールが続いた。龍谷大4年の上村笑理（えみり）さん(21)＝西京区＝は「粘り強く戦う姿に元気をもらった」と喜んだ。

長年のサッカーファンで、オーナーシェフの長崎昌史（まさし）さん(50)はチャンスがくると、調理場で太鼓をたたいて盛り上げた。「次戦は太鼓に穴があくまでたたき続ける」

セネガル在住 邦人も応援



セネガルで日本戦を観戦した安川依希子（いきこ）さん（左）＝セネガル・クールマディアベル市、安川さん提供

京都外国語大（右京区）を卒業し、昨夏から青年海外協力隊員としてセネガルにいる安川依希子（いきこ）さん(23)は、西部のクールマディアベル市の知人宅でテレビ観戦した。近所の人たち10人以上が集まり、セネガルの先制に盛り上がった。

しかし、日本が追いつくと静まり返った。「本田と長友は危険だ」と感想を言い合い、日本のプレーをたたえたという。引き分けの結果に、安川さんは「どっちも応援していたので一番よかった」と話した。

（中山直樹）

2018年6月26日（火）朝日新聞・朝刊（27面・京都）